

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700010		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホームめく杜の郷しおさい		
所在地	北海道虻田郡豊浦町字浜町17番地3		
自己評価作成日	令和2年11月11日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0193700010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0193700010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人理念の実現に向けて一人一人の職員がスキルアップに努め連携を図っています。人材育成・地域貢献・啓発活動に力を入れ「認知症ケア」の地域拠点となるべく関係機関及び近隣住民・ボランティアの方との連携を深めています。  
 ・法人全体にて昨今のコロナ感染予防に努めています。事業所においても、ご家族の面会について制限や工夫・会議研修のオンライン化・飛沫感染予防対策・給付金の活用等、様々な対応を行い感染予防に努めています。又地域医療機関と密に連携を図り、入居者の方の健康管理を行っています。  
 ・面会制限期間が長期化することに伴い、ご家族へこまめな連絡を行い、入居者の方の身体状況やご要望について確認しながら、より一層信頼関係を図り、安心してご利用いただけるよう職員一同連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活そのものをケアとして組み立てており、本人ができることやできる可能性があることに着目して本人の力を見極め、黒子的なサポートを行うことにより自信の回復や生きがいを見いだせる援助に努めています。新型コロナウイルス感染症予防対策上、今年度は外出を含め様々な取り組みが自粛せざるをえない状況ですが、例年、「めく杜カフェ」はボランティアの方々との協力を得て地域貢献を兼ねた運営を行い、事業所しおさい祭りには大勢の地域住民や家族等が集う祭典として開催されています。また個別外出は元より遠方への楽しみ毎を交えたドライブ、目の前で開催される町おこしの世界ホタテ釣り大会やイチゴ豚祭りなどへも気軽にしかけるなど五感刺激の機会を作っています。介護計画は、丹念にアセスメント・モニタリングを行い、実際の暮らしの支えになり機能しています。法人内外の研修、身体拘束適正化、家族との懇談、災害対策を絶えず強化している点も優れており、家族の評価も高い状況です。感染症予防対策に力を注ぎ、施設長を中心に職員が一丸となり利用者・家族に思いを馳せつつ理念の実践に努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員が考え作成したものであり、法人理念・事業所理念を会議で唱和したり、理念カードを携帯して職員同士が理念を共有し、日々のケアにあたっている。	法人経営理念を根幹とする事業所理念を標榜し、玄関や各ユニット等の要所に掲示しています。ユニット会議や研修、委員会活動の際にも唱和するなど意識化を図っています。カンファレンスやモニタリング時にも理念に則りその人らしさについて検討するよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物へ参加したり、地域の学校との交流など、地域の一員として活動している。またGHへの行事や「ぬく杜カフェ」に地域住民がボランティアとして参加して下さり交流を図っているが、現在はコロナウイルスの影響により交流が難しい状況である	自粛中ですが例年、事業所しおさい祭りは地域住民等が参加する大きな祭典となっており、また「ぬく杜カフェ」の運営では各種ボランティアや住民が集う場となり、利用者にとり幅広い交流が実現しています。浜町祭りへの招待や町内会婦人部の方々が餅つきの手伝いに来てくれるなど相互交流も良好です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアケア交流講座や認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェを通じて地域の方へ認知症の方に対する理解を広めているが、現在はコロナウイルスの影響により実践が難しい状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を掲示し、会議内で出た内容について職員にも周知しサービス向上に繋がるよう努めている。本年度は、感染状況により書面での開催、予防対策を行いながら短時間で再開し地域との連携を図っている。	3月、5月は会議メンバーへ議案等を書面で事前に提出し意見書を頂く方法を取り入れ書面会議にて行っていました。7月より感染症予防対策をとりつつ参集にて開催し、運営に関する事業所への意見や助言、また最新の地域の状況や情報が寄せられており、今後の取り組みについて検討されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、事業所の取り組みや実績について報告を行ったり、町の情勢について話を伺うなどし情報交換を行っている。	施設長は社会福祉法人としての事業運営に当たり、利用者家族の最善の利益に資するよう、その都度の案件に応じ担当窓口へ直接出向き制度に関する意見を仰いでいます。運営推進会議においても町総合保健福祉施設、社会福祉協議会、行政区消防署、警察署等と協同関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に身体拘束について施設内研修を行い、職員の理解を深め身体拘束を行わないよう取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針を定め、2ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し議事録を整備しています。高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修会(内部研修)の開催頻度が高い状況です。年2回虐待の芽チェックシートの実施や身体拘束適正化の指針の見直しも行われています。夜間は防犯上の理由により玄関を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のニュースや事件があった場合に速やかに回覧で職員に周知を行ったり、身体拘束適正化委員会を中心に虐待、不適切なケアについて施設内研修を行い学ぶ機会を持つなどして虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束適正化委員会を中心に、施設内研修を行い学ぶ機会を持っている。また、玄関にパンフレットがあり、閲覧できるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、契約の改訂については十分な時間を設け、管理者が説明を行っている。また、不安な点や疑問について利用者や家族から話を伺い、理解・納得して頂けるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見BOXを設置し、意見や要望を出しやすいよう工夫している。また、面会時にお話を伺ったり、苦情等の受付について外部の機関も含めて玄関に掲示している。	この度は自粛となっておりますが例年家族も参加する事業所行事の後に家族との懇談会を開催し、要望や意見を出してもらう機会を確保するほか、家族アンケートも実施しています。電話やユニット通信等で生活状況を報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、職員会議で職員の意見や提案を汲み取り運営に反映されるよう努めている。	施設長は必要に応じて職員と面談する機会を設け、また面談の定例化について予定しています。ユニット会議では職員の意見や提案が忌憚なく出され全体でレベルアップする仕組みが構築されています。6つの委員会が構成され職員は其々所属し活動しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員と定期的に面談を行ったり、勤務状況を把握して代表者に報告し、職員が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の年間予定を職員に周知したり、法人外研修はその都度案内が来たら職員に参加を促している。また施設内研修で自らが講師となることで学ぶ機会を設けているが、現在はコロナウイルスの影響により研修が中止や延期となっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内研修で交流する機会があり、情報交換できているが、現在はコロナウイルスの影響により、研修などが中止や延期となっている状況である。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族に見学に来ていただき生活の様子を見て頂いている。また、管理者・契約作成担当者が面談でアセスメントを行い要望等を伺うなどして、ホームでの生活が安心できるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が入居前や契約時に面談を行い、要望や不安に感じられていることを伺うことで、入居後も家族が気軽に職員に話ができるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・計画作成担当者がアセスメントや面談を行い、本人・家族が必要としている支援を見極め、適切なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントで得た情報を元に、本人のできることを見極めて一緒に家事を行ったり、役割を持つことで、職員と支えあえるよう関わりを持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に行事に参加して頂いたり、面会や宿泊、外食できるよう体制を整えている。本年度は、コロナ感染拡大状況を考慮しながら、面会制限やオンライン化・電話連絡・お手紙等で関係性を維持している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も電話連絡や面会などで知人や友人との絆が途切れないよう支援している。今までの生活やこだわりを把握し、今までの生活が入居後も継続していけるよう支援している。	現在は自粛となっておりますが、昔の教え子であった方など知人の訪問があります。家族との電話や手紙、年賀状の準備などをサポートしています。お寺から檀家である利用者へ便りや菓子が届く事もあります。現在面会は事前予約制のもとで対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの時間を大切にしながら、利用者同士コミュニケーションを図ったり、職員が間に入り孤立しないよう支援している。利用者の個々の状態を把握し職員同士で共有し合い、居心地の良い環境で過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去となった際も面会に行くなど本人や家族との関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・計画作成担当者がアセスメントや面談で把握できるよう努めている。家族に昔の様子について話を伺ったり、一人ひとり意向やこだわりについて理解することで、安心して過ごして頂けるよう努めている。	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方について関心を払っており、意向を直接尋ねたり、家族から情報を得るなどして把握や検討を行っています。基本情報の更新時にも改めて本人、家族の要望を聞いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者が入居前の面談や契約時に本人・家族から聞き取りを行っている。また、居宅ケアマネがいた場合にはケアマネにも話を聞き情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや生活パターンシートを活用し、その方に合ったケアを提供できるよう現状の把握を行っている。また、日常生活の様子をケース記録に残したり、申し送りによって情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやユニット会議、家族との面談や電話相談等で現状の把握と今後のケア方針について話し合い、出た意見を介護計画に反映させている。また、生活パターンを職員で共有し介護計画を見直している。	アセスメントは「IADL」「BPSD」の項目化や「ICF」も用いて詳細に取り組まれています。毎月のカンファレンスで全員分を検討し情報の蓄積や速やかな支援の見直しに繋がっています。家族や医療関係者などの意見を反映させ本人がより良く暮らすための計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や変化についてケース記録に残し、引継ぎで情報の共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に沿って、柔軟にサービスを提供できるよう体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会やボランティアの方に慰問に来て頂いたり、ホームの行事や認知症カフェでお手伝いをして頂き、社会との関わりを持つことで利用者が楽しみを持って生活できるよう支援しているが、現在はコロナウイルスの影響により中止となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナウイルス感染防止対策に努めながら、かかりつけ医の継続した受診支援を行っている。また、受診前後に家族に連絡を行い受診の必要性や受診結果を報告することで、ご家族の意向確認を行っている。	協力医療機関による月1回の往診体制を整えています。歯科、眼科など他科受診は職員が通院支援を行っています。受診前後は家族へ連絡し、受診内容は受診記録に纏めています。職員として週4日看護師を配置し、健康管理体制を充実させています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は利用者の体調管理や医療機関との連携を図っており、職員は利用者の状態や変化について看護師に報告を行うことで必要な受診・看護に繋げることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護添書を作成し、入院後も変わらない支援を受けることができるよう情報提供を行っている。また、面会に行った際には看護師や医師に状態について話を聞くなどして情報交換を行うことで早期退院に繋げるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	管理者が入居の際に、重度化した場合の方針について説明を行い意向を伺っている。また身体状況の変化に応じて、地域医療機関と密に連携を図りご家族の意向を確認しながら支援を行っている。施設内の研修委員会を中心に終末期のケアについて研修を行っている	重度化した場合における対応に係る指針を定め、利用契約時に説明し同意を得ています。状態変化に応じて家族と話し合いを行い、医師の判断も交え関係者間で検討が行われています。家族の意向に応じ、法人の協力の下に他の施設への移行支援も行われています。職員はターミナルケアに係る研修を受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがユニットに掲示されており、緊急時の対応について定期的に研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の方にも参加して頂き、防災委員会を中心に火災、地震、津波想定避難訓練を行っているが、現在はコロナウイルスの影響により、施設内での避難訓練を行っている。	8月に日中、11月に夜間を想定した火災避難訓練を消防署の指導の下に実施しています。津波や地震など災害種別に応じた想定訓練もっており、通常期は地域住民の協力が得られ協力体制を築いています。災害に備えた備蓄品を確保しています。	新たな避難ルート(駐車場)を想定した避難訓練を実施する意向であり、また、発電機やカセットコンロを用いた調理を体験し臨場時に備えるなどの災害対策の強化に取り組む考えを示していますので、その実現に期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛け等は、他者に気付かれないようさりげなく声をかけることでプライバシーに配慮している。	身体拘束適正化委員会や研修においても権利の保証や人格の尊重、対人援助の基本原則等に触れています。ユニット会議では職員から言葉や語調について意見が出るなど具体的に全体で確認しています。記録は第三者の目につかない場所に保管し、介護記録をデジタル化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物、行事のメニューで好みのものを伺うなど、自己決定の機会を持てるよう努めている。また、日頃から希望やこだわりを確認し、利用者の希望に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の体調や気分によって、入浴の日や食事の場所、外出の希望などをできるだけ要望に沿うことができるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナウイルスの影響により馴染みの美容室へ行くことは難しくなったが、美容室の方に来訪して頂きおしゃれができるよう支援している。また、これまで着ていた洋服をお持ち頂いたり、シャンプーやトリートメント、化粧品など馴染みの物を使って頂いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握したり、食べやすさ、飲みやすさを見ながら個々に合った食事形態で提供を行っている。季節の食材を使用したり、調理や食器洗いなどできることを職員と一緒にやっている。	献立は法人の管理栄養士が立てたものを適宜変更し、利用者の食べたい物や嗜好を反映させて提供しています。事業所の畑の野菜や旬の食材も利用しています。行事食や海鮮丼、カフェのようなおやつなども喜ばれています。また利用者は職員と一緒に食事一連の流れに携わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活パターンシートを活用したり、看護師と相談しながら食事量・水分量を把握しその方にとって必要な量を摂取できているかを把握している。必要に応じて補助食品や代替えも用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	栄養・食事・歯科モデル事業を実施し、歯科医師、歯科衛生士の専門職チームと協働し、歯磨きの仕方の指導やご本人に合った義歯の作成を行った。歯磨きはご自分でできる方はご自分でっており、支援が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活パターンシートで一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあった時間に誘導を行うことでトイレでの排泄に繋げることができるよう支援している。	生活パターンシートに排泄状況を記録しています。本人の状態に合わせた個別の支援を行い、トイレでの排泄を可能にしています。誘導は元よりトイレ内での声かけにも配慮しています。昔馴染みの言葉や絵も使い、トイレの場所を分かりやすく表示しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も使用しているが、乳製品やごぼう茶、果物を摂って頂くことで自然な排便に繋がるよう便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	極端に間が空かないよう、ある程度入浴日の目安を決めてはいるが、本人の希望を伺い時間帯や曜日を決めている。また、本人の好みの温度や入浴剤を使用するなど個々の希望に沿った支援をしている。	利用者の意向や希望を優先し、また本人の了解が得られたタイミングなどで入浴を誘っています。好みの湯加減や馴染みの湯道具で気持ち良い入浴となるよう支援しています。自立度の高い方は声かけなどの見守りを主とし、満足感に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に沿った睡眠ができるよう支援したり、その日の気分によって好きな時間に休んで頂いている。また、部屋の温度や湿度、光量にも配慮し安眠しやすい環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て完璧に把握はできていないが、お薬情報のファイルがユニットにあり、すぐに確認できるようになっている。服薬マニュアルがあり、支援方法も統一できており、服薬方法の変更があった場合は速やかに職員に周知を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体状況に合わせて、本人の意欲を引き出しながら食事の準備や茶碗洗い、掃除を一緒に行ったり、本人の家族から昔の話を伺い、趣味や好きなことを日常生活に取り込むことで張り合いのある毎日を過ごせるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、散歩やドライブなど施設の行事も含めて外出支援を行っている。また家族と外出される際には、本人の状態について情報を伝え、安心して外出できるよう支援しているが、現在はコロナウイルスの影響により、外出はできない状況である。	現在は自粛中ですが、例年、道の駅やふれあいスポーツセンター、壮瞥のさくらんぼ狩り、洞爺湖の喫茶店、地域のイベント、買い物など様々な場所へ積極的に外出をしています。現状では周辺環境を活かし可能な範囲で散歩をしたり、ベランダから海釣り人や自然豊かな美しい景色を眺めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないがお金をご自分で管理されている方もおり、本人が使用する際には必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届いたり、施設の電話も自由に利用されている。携帯電話を所持されている方もおり、家族と会話ができている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の明るさや温度に配慮し、カーテンを閉めたり窓の開け閉めをして換気を行っている。また、職員の声の大きさなどに配慮し、利用者が不快にならないよう努めている。リビングにはテレビやソファ、雑誌が置いており家庭的で居心地良く過ごせるよう努めている。	共用空間はリビングとダイニングが一体になった広い造りで、サブリビングやベランダもあり、好きな場所で寛げる空間となっています。ベランダからの景色も絶好のロケーションであり、居ながらにして四季の移ろいを感じることができます。温・湿度計や加湿器などを設置し、空調に配慮しています。季節感ある装飾や植物、職員が撮影した自然のモチーフの写真が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サブリビングにソファを置き、一人でゆっくりと過ごせる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用していた使い慣れたものを持ってきて頂いたり、本人や家族と相談しながら家具の配置やレイアウトを決めるなど生活しやすい環境を作っている。身体状況の変化に応じ、危険な箇所は本人や家族と相談し、撤去したり保護し事故防止を図っている	備え付けはカーテン、照明があり、その他は使い慣れた家具や調度品、愛着のある品々を持ち込んでレイアウトされています。得意であったデッサン画や家系図が貼られていたり、新聞の切り抜きなど趣味事も自室でできるよう整えています。利用者の状態に応じ、家族と相談しながら適宜設えを見直しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりが設置しており、トイレの場所もわかりやすく表示することでできるだけ自分の力で行動することができるよう工夫を行っている。		